

## 平成20年度 継続評価書

- 研究機関 : エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、日本電気(株)、日本電信電話(株)、東日本電信電話(株)、(株)日立製作所
- 研究開発課題 : 次世代バックボーンに関する研究開発
- 研究開発期間 : 平成 17 ～ 21 年度
- 代表研究責任者 : 市川 弘幸(エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株))

■ 総合評価 : 適(適/条件付き適/不適の3段階評価)

■ 総合評価点 : 38点

(総論)

優れた研究開発の成果が得られている。

(コメント)

- 実施企業間の連携にも配慮されており、他の組織であるNICTとの連携などによって成果の充実を図っている点は望ましい。
- 最終年度を迎えるにあたり、研究開発を計画に従って実施すると共に、本研究開発プロジェクトの象徴的な成果の発信が行われることを期待する。
- 今後の研究開発計画に寄与するため、本研究開発の成果に基づき、当初予期されなかった外部環境の急激な変化などを考慮して、今後行うべき研究開発課題の抽出及び提示を行うべき。
- ここで開発された技術が広く使われることが期待される。そのために技術を採用する人々への周知方法等、成果を活用する機会が広がるような方策を工夫すべき。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

計画どおりの成果が着実に得られている。

一部の研究開発項目については、来年度に計画されていた内容を前倒して実施し、来年度の目標を達成している。

デファクトスタンダードに向けての活動及び国際標準化に向けた提案など活発に行われている。

(コメント)

- 前評価時に指摘された各事項に対し、回答及び対応が誠実に行われている。
- 特許審査請求中の数は多く、意欲的である。
- 研究開発成果の普及に向けた情報発信を積極的に行っている。
- 実用化の見通しが明確な技術がある。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 8点

(総論)

予算計画書等に則り、効率的かつ適正な執行が行われている。

(コメント)

- 実証実験等において、NICT北陸リサーチセンターのテストベッドを活用して効率化に努めている。
- 充実すべき事項への集中を行い、予算執行が柔軟になされている。変更理由はいずれも妥当である。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

#### (総論)

これまでの研究成果を基に、実行可能で、効率的な計画が立案されている。

#### (コメント)

- 前回評価時の指摘事項に対して適切な対応が取られている。
- 工程管理の面において、受託者間の連携が取れるように工夫されている。
- 研究開発成果の出口としての製品化又は事業化を意識し、各受託者において本研究開発活動と事業化との連携に配慮されている。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

#### (総論)

効率的な予算計画であり、妥当である。

#### (コメント)

- これまでの成果を活かすこと等により、研究開発の効率化を図り、一方で、加速すべき課題への重点的な予算配分を行うなど、弾力的な計画が立案されている。
- NICT北陸リサーチセンターのテストベッドを活用して経費節減効果があった。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

### (総論)

実施体制が適切である。

受託者間において、十分なコミュニケーションが図れるように工夫されている。

### (コメント)

- 受託者間の連携が不可欠であるが、研究開発を遂行するに当たり、ネットワークを介した方法も含め会議を行い、情報交流及び意思の共有化が良好に図られている。